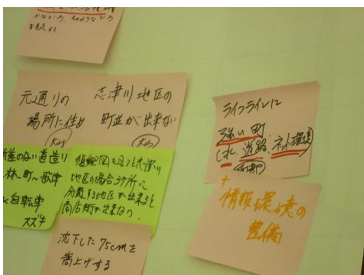


Cグループ

<Cグループ討議内容>

～規制緩和、新しいまちづくりのアイデア、資金の裏づけ～

- 今回の大震災に関しての検証をすべき。高台の人が被災した人を避難所に誘導し、そこから仮設住宅、公営住宅へと時間軸でどうやって対応してきたのかをきちんと検証することが後世に役に立つと思う。
- 葛西氏の時代の建屋は全部残っていること、縄文時代の貝塚は被災していないこと、気仙街道の西側は被災していないこと。これらを検証した場所を選べば安全を確保することができるのではないか。世界一の被災をした町なのだから、世界一安全な町へ変えて、それを目的に外から人が移住してくるようになりたい。
- 残念ながら南三陸町は加速度的に人口が減少している。彼らはやむにやまれず出て行っている。宮城大学がキャンパスを作るなどして、人が増えるようにしてもらいたい。
- 契约会などの伝統的にあるコミュニティは大切。今回の震災でどれだけ勇気付けられ、助けられたか。これらのモデル的なまちにしたい。
- 復興するには資金が足りない。ただし、補助金だと最終的には税金になってしまうので、そうではなく資金が循環する方法を考えてほしい。
- まとめると、必要なのは規制緩和や新しいまちづくりのアイデア、資金の裏づけである。まちづくりを足元から考えていきたい。



【会議のまとめ】宮城大学 風見 正三 教授

～意見を束ねることが大事～



今日は、皆さんの前向きで、建設的な議論と一緒に協力できて光栄です。時間が無かった中で、これほど素晴らしい議論ができるのは私の経験のなかでもそんなにありません。皆さんの町を再生していこうという気持ちが深くあったためだと思います。

Aチームの発表は、絶対に津波にあわないという言葉に示されています。これは被災地域でしか絶対わからないですし、これを語り続けていくことが大事だということです。Bチームの発表は、エコロジーですね。電気やセルフエネルギーがでていました。具体的ですぐにでもできそうなことが挙げられていてよかったです。Cチームの発表は、すでに大変よく総括されていました。世界から注目されていることに対して、世界一安全な町にして、豊かな暮らしをするということでした。是非達成して、まちづくりをしていこうという実感がわいてきました。

課題もでていました。資金がないこと。束ねることが大事なのです。一人の声は一つの意見ですが、地域の意見にまとめると強くなります。地域の皆さんも少しずつ意見が異なりますが、話し合ううちに一つの思いができていくのです。

次回 第2回震災復興町民会議の予定

日時: 7月22日(金)14:00～16:30 場所: 南三陸町役場仮庁舎会議室

第1回

活動
報告

第1回 活動 報告



南三陸町震災復興町民会議
かわら版(創刊号)

～町民会議がスタート～

東日本大震災から南三陸町を迅速に蘇らせ、未来に誇れる町を創り出すには、住民と行政が力を合わせることはいまでもなく、多様な主体との協働が重要です。

また、復興計画策定においては、住民の思いや将来への創造力を引き出し、丁寧に、しかもスピード感をもって復興像を描き出していかなければなりません。

町民会議では、町と地域が力を合わせて取り組む復興まちづくりの提言書を取りまとめます。



プログラム

日時 平成23年7月8日(金) 午後2時～4時
場所 南三陸町 入谷公民館 会議室

14:00

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 委任状の交付
- 4 会長、副会長の選出
- 5 グループ分けとリーダーの選出
- 6 南三陸震災復興基本方針(素案)について
- 7 講話(事例紹介)
「奥尻、中越の復興まちづくりにおける市民参画」
講師: 人と防災未来センター 主任研究員 石川永子氏

- 8 グループ討議
(1) どのような南三陸町に復興したいか
(2) その実現に向けた何をすべきか

- 9 全体での話し合い

16:00

- 10 閉会

町長挨拶:佐藤仁町長

～町民の皆さんの思いを一つに～

公募の方14名と各種団体からの推薦者10名の合計24名の方々に委員となっていました。

3月11日の東日本大震災から早いもので間もなく4ヶ月を迎えます。復興計画策定会議も今月10日に第2回が開催され、有識者委員からさまざまな意見をいただいております。

その一方で、この地域で生まれ、育ってきた町民のみなさまが、この新しい南三陸町にどういった夢や考えをもっているのかも重要な視点であると考えております。町民会議では、委員のみなさまから忌憚のない想いを吐露していただき、ご提言いただきますようお願いいたします。

このたびの震災からの復興は、町民のみなさまの思いを一つにしなければ、なかなか難しいことでしょう。

委員のみなさまのご発言、ご活動に大いに期待しています。



挨拶:宮城大学 学長 西垣 克 氏

宮城大学と南三陸町の関係は、昨年に町との間で、この地域の発展に期するように大学が全力を挙げて協力するという包括的な地域連携協定を結んでおり、今回の大震災を機に、更に協力を深めていきたいと考えております。

南三陸町を21世紀の明るい夢と希望を語り継げるまちにすることに対し、我々の大学は微力ではありますが、全力を挙げて取り組んでまいります。



【講話(事例紹介)】

グループでの話し合いに先立ち、人と防災未来センター主任研究員石川永子氏から「奥尻・中越の復興まちづくりにおける市民参画」と題する講話をいただきました。

講話では、合意形成を図る話し合いを積み上げる仕組みや実際に現場と向き合って考えるワークショップの事例について紹介していただいたほか、地域づくり・安心づくりを支援する人材の確保（震災復興支援員）、鎮魂の場の創出等の重要性に触れられました。



【全体進行】宮城大学 永松 栄 教授

復興計画策定において、町民会議は重要な位置づけをもっています。各グループに担当教員が寄り添って、話し合いを進行させていただきますので、遠慮なく活用してください。



どのような南三陸町に復興したいか。その実現に向けて何をすべきか。「想い」を積極的に発言してください。

他の人の意見への相乗りもOKです。

鈴木 孝男 助教

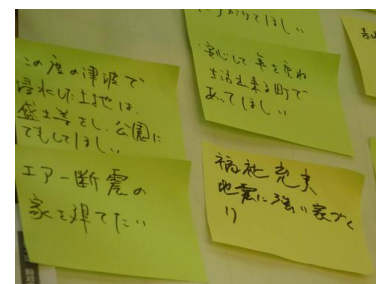


A グループ

<A グループ討議内容>

～町民が住みやすい街づくりを提唱～

- ほとんどの人は「住みやすい豊かな町にしたい」という同じ思い。震災の津波の被害は二度としたくないというのが第一の思い。
- 新たにまちづくりをするので、理想の街づくりができるはず。例えば、道路をつなぐまちづくり。震災時には2～3日、道路がつながらず、それで命が失われた。自然に強いまちづくりが必要。
- もっと豊かになるには、子どもの環境が大事。学校が失われた地区もある。いち早く子どもの環境を元にもどしてあげたい。
- 老人施設や病院などの施設も大事。同じような場所に同じようにつくりらなくてはならない。
- 総合的な病院のほかにも、個人病院が必要。例えば、アパートの角に個人病院があると、町民にとっての利便性が高いまちづくりになる。
- 新しく作る町は、みんなの思いのたけを出しながら、みんなが住みやすい街づくりを提唱していきたい。

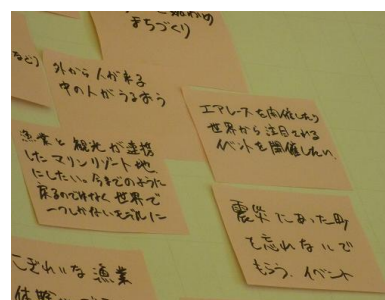


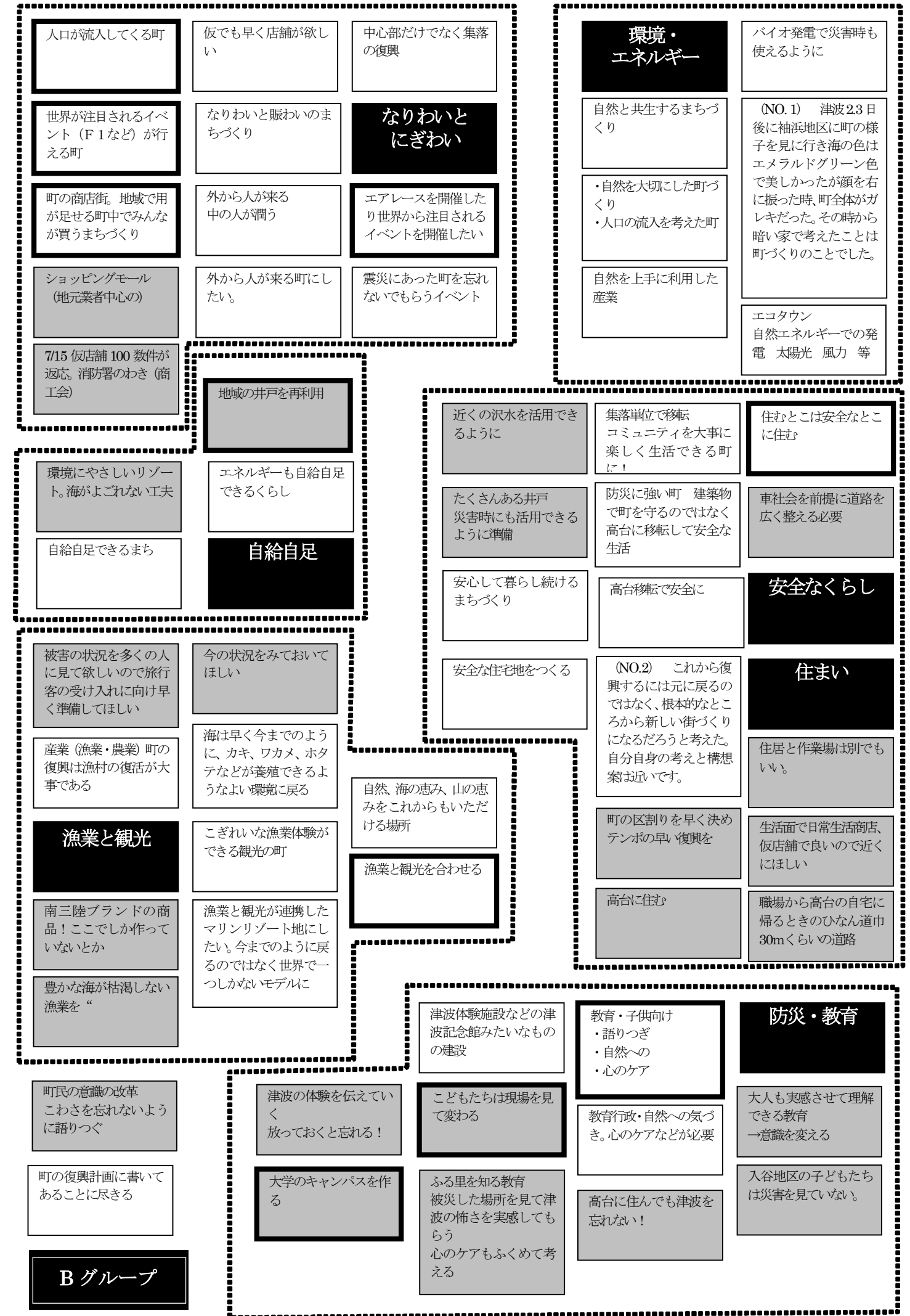
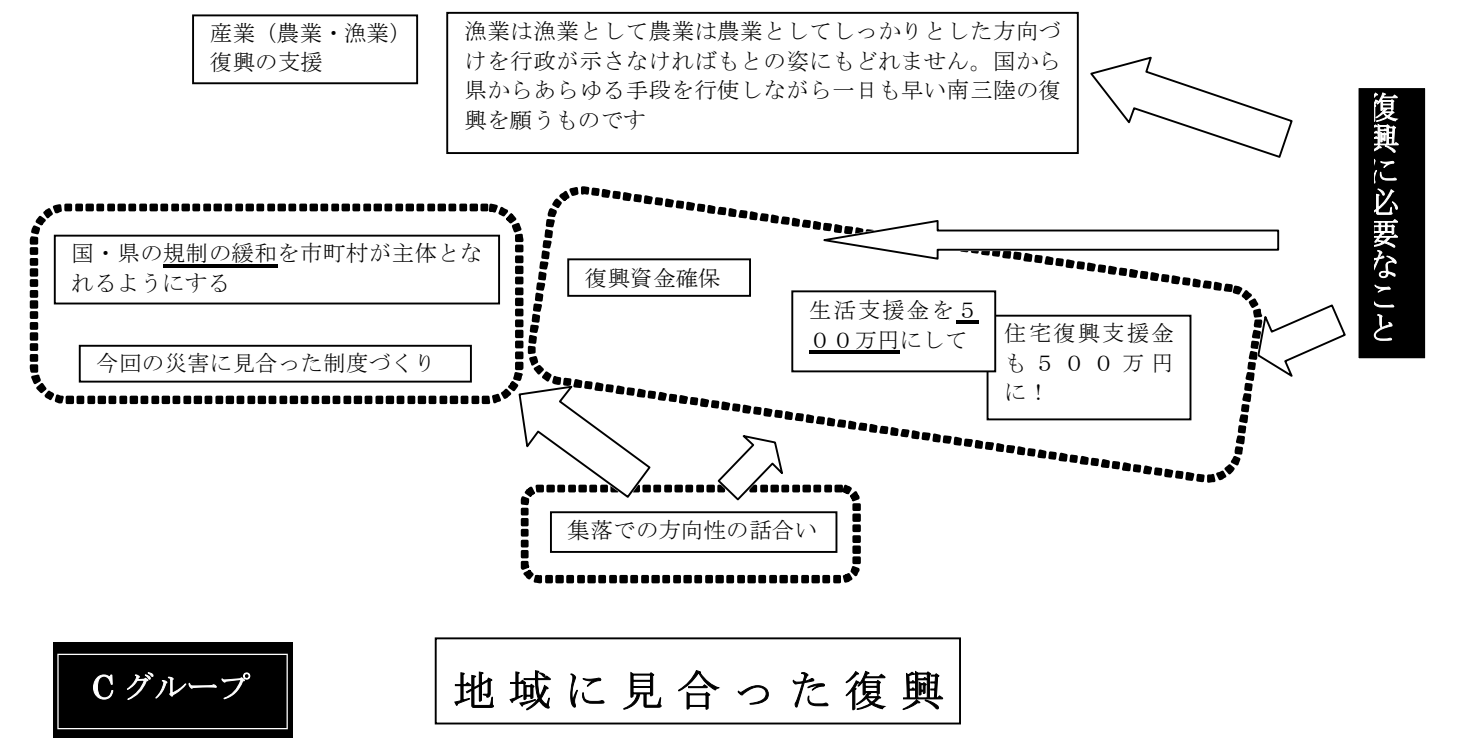
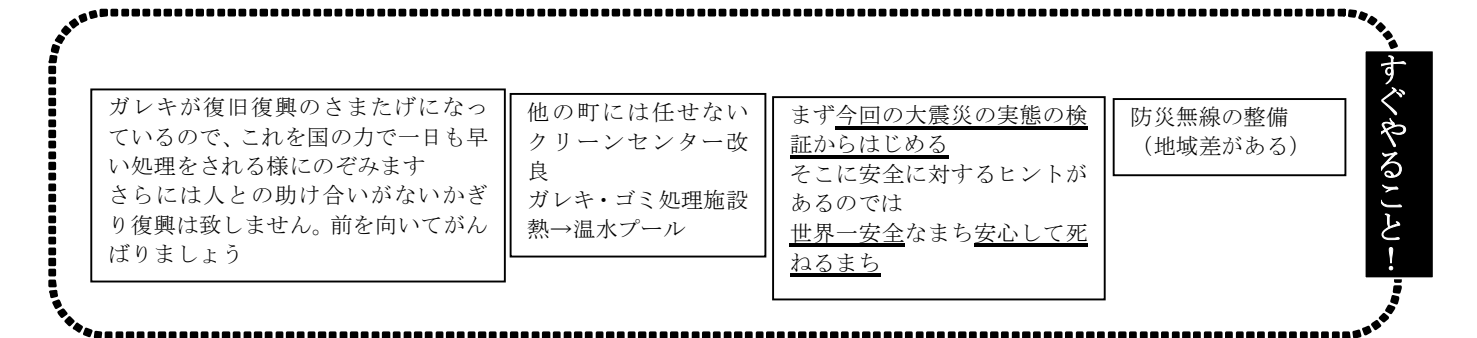
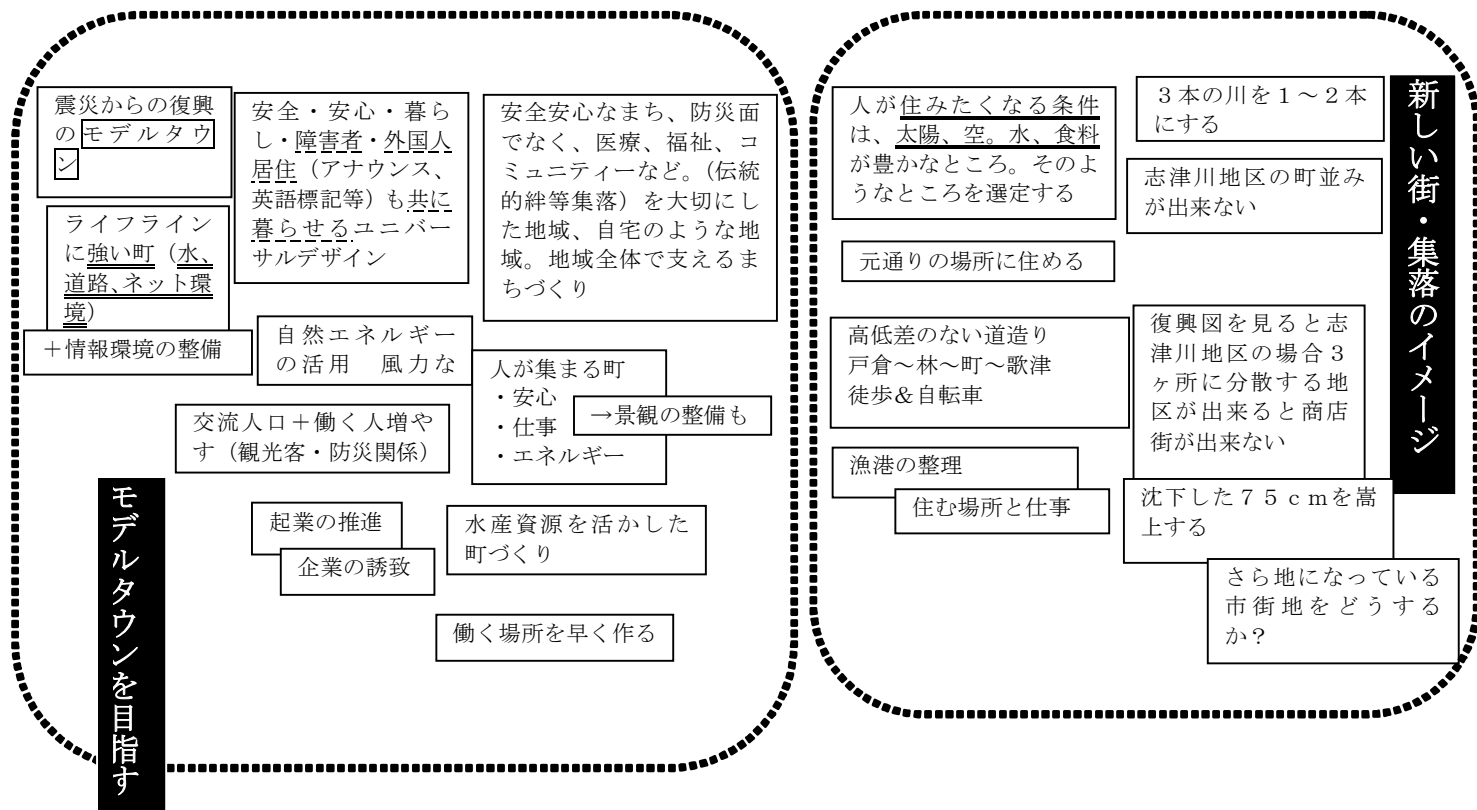
B グループ

<B グループ討議内容>

～エコなまち、世界的なイベントを～

- 町民が安全に住むためには、高台に家をつくるべきである。そこで生活するには電気や水が必要なので電気は太陽光、風力、バイオマスなどエコな発電を進めていくべき。また、水は井戸を極力使えば災害時に生活が楽にできた。井戸を再認識して、水の確保を図ることが重要。
- 子どもたちには、今回の震災について、現場を見せながら語り継いでいくことで意識が変わっていくと思う。
- 南三陸町は世界的な津波被害で、せっかく有名になったのだから、いつまでも忘れてほしくない。ここで世界的なイベントを開催したらどうか。例えば、エア・レースという、海にポールを立ててそこをセスナ機が回るというものがある。他のところがやっていないイベントをして南三陸町をずっと認識されるようにしたい。
- この会議を手伝ってくれている、宮城大学には南三陸町にキャンパスを作って欲しい。





(資料) 各グループの話し合いで出た意見

